

令和4年度 秋季 宮崎国際大学 入学式
学長式辞

宮崎国際大学全教職員を代表して、お祝いを申し上げます。新入生の皆様、御入学おめでとうございます。皆様の本学への留学を心から歓迎致します。

皆様は母国を離れ、文化も社会も大きく異なる日本での生活に最初は苦勞される、あるいは、すでに苦勞されているかも知れません。しかし、私達の宮崎国際大学には、文化・社会の異なる16か国からの教員や学生が共存しており、お互いに話し合い、お互いに理解し合い、お互いに尊重し合う基盤ができています。また、本学の建学の精神の一つの礼節は、お互いを尊重し合うことを謳ったもので、まさに、「組織において、国籍や性別、年齢などの違いを受け入れ、それぞれの多様な価値観や発想を活かす」ダイバーシティそのものなのです。だから、皆様は本学に早くなじむことができると思っています。

さて、世界の近代化は科学の進歩とともに急速に拡大し、インターネットで全世界がつながり、携帯電話の普及により、リアルタイムで世界のどこでも話すことが可能になってきました。しかし、世界の進歩と裏腹に、一方では、現在でも毎日の食べるものが手に入らない極度の貧困層が世界には数億人以上いると言われています。「持続可能な開発目標（SDGs）」の中では、「世界中の、あらゆる形の貧困を終わらせる」ことが17の目標の一つ目にあげられています。宮崎国際大学で、皆様はグローバル社会や情報化社会の仕組みを理解し、リベラルアーツ教育をしっかりと身に付けていただき、将来、SDGsの達成にも大きく貢献できる人に成長して頂ければと期待しています。

さて、宮崎国際大学では、皆様がこれまで受けてきた母国での教育方法とは異なるスタイルでの教育を受けることになるかも知れません。本学の国際教養学部の教育の基本は、教員がすべてを詳細に教えてくれるわけではなく、学生が自ら主体的に勉強し、自ら課題を見つけ、自ら解答を出す力を養うことにあります。教員は皆様をサポートして的確なアドバイスをすることになります。なぜ、そういうスタイルの教育を行うか？それは、皆さんが社会で必要とされる力は、一般教養的な知識もあるかも知れませんが、それよりも、常に客観的な視点を持ち、論理的、批判的な思考力を備え、常に自分を向上させる姿勢を持っているか？と思っています。そのための教育であることを理解してください。ぜひ本学の在籍期間で、どの社会でも通用する自分を確立してください。

最後になりますが、大学の中では、あなた達はまだまだ未熟です。幾らでも恥をかいて構いません。質問することは一時の恥で済みますが、知らないままにすることは一生の恥になるかもしれませんし、本学で学ぶ意味をなしません。寂しさに打ち勝つ強さ、失敗をおそれない強さ、質問することを恥じない強さを持ち、どん欲に学び、大学で必ず自分の将来の基盤を作ってください。

本日は、ご入学おめでとうございます。

令和4年10月3日

宮崎国際大学学長 村上 昇